

SSS017-P22

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

LiDAR DEMを用いた流域地形解析に基づく横ずれ活断層の活動度評価

Utilization of LIDAR DEMs in assessing active degree of strike-slip faults in Japanese mountains

林 舟¹, 金田 平太郎^{2*}

Zhou Lin¹, Heitaro Kaneda^{2*}

¹産業技術総合研究所活断層地震研究センター, ²千葉大学地球生命圏科学専攻

¹Geological Survey of Japan, AIST, ²Chiba University

活動履歴不明の横ずれ断層については、河谷の屈曲など地形情報から活断層の活動度を評価することが期待される。本研究は、航空レーザー測量による詳細デジタル地形データを用いて、横ずれ活断層による河谷屈曲の有無を定量的に判定し、屈曲量の客観的な抽出手法を検討した。この手法を西南日本山地に分布する横ずれ変位速度の異なる（ ~ 0.01 mm/yr - ~ 10 mm/yr）7断層（鹿野断層、猪之鼻断層、梅原断層、駄口断層、高山断層、根尾谷断層と跡津川断層）へ適用し、平均変位速度と屈曲量及び谷地形の傾斜量などとの関係を検討した。その結果、横ずれ活断層の活動度を見積もるには、屈曲率（屈曲量と谷の長さとの比率）と谷の侵食速度が必要であることが示唆された。

キーワード:横ずれ活断層,活動度, LiDAR DEM,流域地形,屈曲量,侵食速度

Keywords: strike-slip fault, active degree, LiDAR DEM, watershed, channel offset, erosion rate